

歯科領域鎮痛剤(内用剤)フロー図

2026年6月初版

鎮痛剤薬価 2026年4月

メフェナム酸
先発 18.9円750mg/日
ナプロキセン
先発 37.8円600mg/日
ロキソプロフェンナトリウム水和物
先発 32.4円180mg/日 後発 31.5円180mg/日
ザルトプロフェン
先発 32.4-42.0円240mg/日 後発 32.4円240mg/日
ジクロフェナクナトリウム
先発 19.5円75mg/日 後発 18.3円75mg/日
ロルノキシカム
先発 32.4円12mg/日 後発 32.4円12mg/日
セレコキシブ
先発 31.4円200mg/日 後発12.6-16.6円200mg/日
チアラミド塩酸塩
先発 32.4円300mg/日
アセトアミノフェン
後発 33.6円1500mg/日

COX阻害作用が少ない

アセトアミノフェン チアラミド

COX-2を選択的に阻害

セレコキシブ

即効性がある

アセトアミノフェン、ロキソプロフェン ジクロフェナク、チアラミド ロルノキシカム

消化性潰瘍の患者に禁忌

メフェナム酸、ナプロキセン、ロキソプロフェン、ザルトプロフェン、ジクロフェナク、ロルノキシカム、セレコキシブ、チアラミド

重篤な腎機能障害患者に禁忌

メフェナム酸、ナプロキセン、ロキソプロフェン、ザルトプロフェン、ジクロフェナク、ロルノキシカム、セレコキシブ、チアラミド

妊婦 第一選択薬

アセトアミノフェン

妊婦(妊娠後期以外は有益性が
まさったと判断された場合の投与)

ナプロキセン、ロキソプロフェン、
ロルノキシカム、セレコキシブ

授乳婦に安全に使用できると
考えられる薬

ロキソプロフェン、ジクロフェナク、セレコキシブ、
チアラミド、アセトアミノフェン

歯科適応鎮痛剤比較表

		アニリン系	プロピオン酸系
一般名		アセトアミノフェン	ロキソプロフェンナトリウム水和物
先発			ロキソニン
後発		カロナール・アセトアミノフェン	ロキソプロフェンNa
規格		末、細粒、錠剤、シロップ	細粒、錠剤
1日薬価	先発		32.4（180m g）
	後発	33.6（1500m g）	31.5（180m g）
効能・効果（歯科）		①歯痛・歯科治療後の疼痛 ②小児領域における疼痛・解熱	消炎・鎮痛・解熱 手術後、外傷後並びに抜歯後の鎮痛・消炎
用法		投与間隔4～6時間	1日3回
用量		①1回300～1000m g ②小児：1回10～15mg/Kg	1回60m g
Tmax(h)		1	0.5
t1/2(h)		3	1.3
消化性潰瘍			禁忌
重篤な血液の異常			禁忌
重篤な肝・腎障害		肝障害のみ禁忌	禁忌
重篤な心機能不全			禁忌
重篤な高血圧症			
アスピリン喘息またはその既往			禁忌
妊婦	添付文書	有益性>危険性	禁忌（妊娠末期）
	FDA	A	
	AUS(TGA)	◎	
授乳婦	国立育成医療研究	授乳中に安全に使用できると考えられる	授乳中に安全に使用できると考えられる
	添付文書	授乳の継続または中止を検討すること	やむを得ず投与する場合は授乳を避けること
特徴		1日総量1500m g を超す高用量で肝機能障害に注意 COX阻害作用はほとんどなく、中枢に作用することで効果を発揮する。 インフルエンザ罹患患者、小児、妊婦で多く使用される。	プロドラックであり、胃腸障害が比較的少ない。速効性に優れた薬剤

効能効果	推奨薬
鎮痛	アセトアミノフェン(カロナール®) COX-1,COX-2を介さない 副作用が少ない 鎮痛作用は弱い 妊婦・授乳婦に比較的安全 小児適応を有する 解熱作用を有する ロキソプロフェン(ロキソニン®) 他のNSAIDsと比べて胃粘膜障害が少ない 解熱作用・消炎作用を有する

※成人用のフォーミュラリであることに留意してください

歯科領域鎮痛剤（内用剤）

推奨後発品

2026年1月

アセトアミノフェン：

「カロナールあゆみ」 「アセトアミノフェンマルイシ」

ロキソプロフェンナトリウム水和物：

「OHA」 「トーワ」 「クニヒロ」 「CH」